

72 鬼餅由来（イ）

男女兄妹、二人いたそうですよ。だからその男はね、男のきょうだいは鬼だったわけ。して、もうみんなも、この男がね、男のきょうだいがもうみんな、人をこんなしてもうあれするでしょう、鬼だから。食べてしまおうでしょう。だからこのウナリ神がね、女きょうだいがね、

「こんなしてはいけない」と言うてもう、頭使ってから。して、餅をね、やつぱし昔は、とうもろこしと違って、もう一つね、赤い餅作って、また半分は白い餅作って、両方作ってからね。して、きょうだいにね、男のきょうだいに、

「今日、この日だから兄さんにあげるよ」って言って、して、あげたけど、あげたのが、その場所が、今までこれ確かめられないっていうわけ。歴史面からもね。

これをね、海の側だったかね、ずっと山の絶壁だったか知らんけど、いえば絶壁にね、この男がね、絶壁

類話

を後ろにして坐らしてね、坐らしてからね、餅も持つて行つて坐らしてからね。して、この女のきょうだいは、その前を開けてからね、して向かい合いに坐つて、したら、その餅を二人の間に置いてからね、上がつて行つて、その女きょうだいがやつたら、食べて、「おいしい」と言つて食べたことは食べたけど、赤い餅を食べようとする時に、その女がね、「兄さんは人食い口を持つているから、私は鬼食い口を持つているから」って言つて、やつぱこつちと言うわけさね。して、そのまま後ろに急に押し倒したつてしたら、男は落ちてしまったわけさ。それで退治したつて。

それでその、やつぱし餅の、いえば本当のあれば、この餅でやつてゐるわけでしょう。餅食べさせるあれでやつておるわけでしょう。だから、それから、この鬼を退治するために、この餅の意味は、伝説ができて、して、それを家で毎年茹でるでしょう、餅をね。ふかすですよ。そのお湯をね、家の口にね、みなかけるんですよ。熱いうちに。これね、『鬼の足をゆがします』と言つてかけるんですよ。これは。

字武富	長嶺豊子、大城トミ
字北波平	大城正太郎
字賀数	大城政秀、照屋亀八
字阿波根	平田徳太
字兼城	新垣登一
字豊原	伊集守良、国吉マツ
字与座	城間ウシ、伊敷清保、伊敷スエ
字真栄平	名嘉真朝昌、大城加那、喜納サト、金城ヒデ
字名城	伊敷義光、伊敷亀順、新垣武登
字糸洲	中村光一
字小波蔵	伊敷力ミ
字南波平	伊集スエ
字東里	上良武定（上里区）
字福地	殿内三吉
字山城	新屋タカ
字伊原	上原孝助